



Bーぐる沿線協議会ニュース

第13号

平成27年9月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティ担当） 03-5803-1387

平成27年6月8日に沿線協議会が開催され、事務局から平成26年度Bーぐるの運行実績、日立自動車交通㈱から決算の報告があったほか、Bーぐるの改善や利用促進に向けた質疑応答がありました。

千駄木・駒込ルートは2年ぶりに増加。目白台・小日向ルートは3年連続の増加。

平成26年度の千駄木・駒込ルートの年間乗車人数は502,758人で、2年ぶりに増加に転じました。5月を除くすべての月で乗車が増加しており、特に例年乗車が増加する冬場（1、2月）の落ち込みが小さかったことが年間乗車人数の増加につながりました。

一方、平成23年12月の運行開始から4年目となった目白台・小日向ルートの年間乗車人数は419,679人であり、3年連続の増加となりました。一日当たりの平均乗車人数も1,150人となったことから、「区で定めている公的支援の基準の目安である一日1,200人を来年度にもクリアできる見通し（区民課）」が出てきました。

続いて、日立自動車交通㈱の西窪委員から平成26年度の決算報告があり、千駄木・駒込ルートが約1,200万円の赤字、目白台・小日向ルートが約1,830万円の赤字となり、両ルートとも区補助金予算上限額が支出されたとの報告がありました。整備費の増加や燃料費の高騰による営業経費の増加が顕著だったことが、主な要因になっています。

これに対し区は、公的支援の継続については、経済性と公益性とのバランスを考慮して引き続き総合的に判断していきたいとしています。出席委員からは、「回数券や一日乗車券を区のイベントや地区のお祭り等で配る景品や記念品に利用」といった利用促進に向けた具体的なアイデアや「運送収入以外に、広告等の営業活動にも力をいれるべき」といった意見が出されました。

そのほか西窪委員からは、「いつも混んでいるイメージが一度出来てしまうと、乗車を敬遠される傾向がある。現在千駄木・駒込ルートで使用している車両はデッドスペースや乗降に不便な部分があるが、今年度導入予定の新車両で改善されるため、「混んでいて乗りづらい」イメージが払拭されることを期待している」とのコメントがありました。

<委員から出された利用促進策>

- 区内の宿泊施設で観光客向けに一日乗車券の割引販売する
- 回数券や一日乗車券の委託販売場所を増やす
- 回数券や一日乗車券を区のイベントや地区のお祭り等の景品や記念品に利用してもらう
- 一日乗車券が両ルート共通で利用できることをPRする

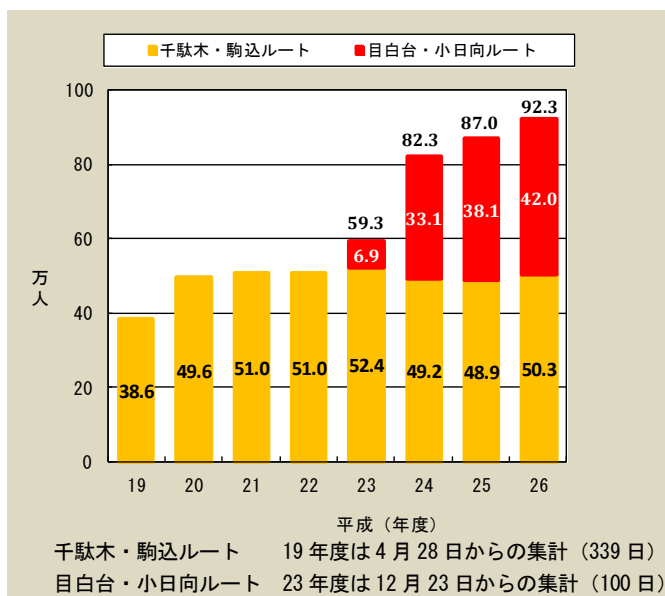


図1 Bーぐる乗車実績の推移

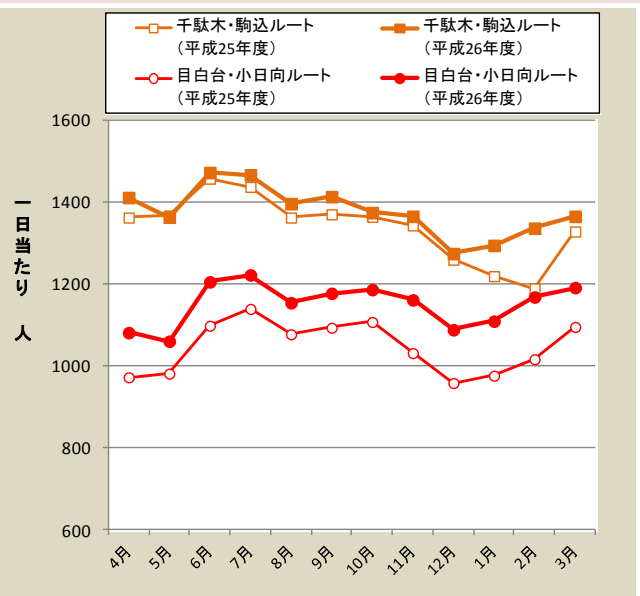


図2 月別乗車実績 (平成25・26年度)

Bーぐるの改善や利用促進に向け、活発な意見交換

次に、Bーぐるの改善や利用促進に向けた質疑応答がありました。公募委員が中心となって作成した質問書をもとに行われた、活発な意見交換の様子をいくつかご紹介します。

質問 1

各バス停のルート図や時刻表の文字が小さかったり、白抜きの文字が夜間に判読しづらいと思います。バス停表示を全般的に見直す予定はありますか。

回答 1

5月18日の時刻改正に合わせ、これまでの多色刷から最大3色刷（黒・赤・青）とし、レイアウトも全体的にすっきりとさせました。時刻表を作成しているシステムがパッケージであることや、バス停留所の板面の寸法等から制約もありますが、今後できる範囲で見やすさを追求したいと考えています。

（日立自動車交通㈱）

平成27年度末を目処にバス停の外国語併記対応のため、板面の取替えをお願いする予定であり、対応可能な範囲でレイアウトについても見直したいと思います。その際には、協議会の方々にもご意見をいただきたいと考えています。（区民課）

質問 2

広告収入が増えれば区の補助金を減らせますが、北区Kバスに比べ、Bーぐるの車内広告が少ないように感じます。これには、何か理由はありますか。また、増収に向けた取組みや改善策がありますか。

回答 2

委託している広告代理店からの報告によると、コミュニティバスでも地域（区）により広告掲出への意欲に差がある（隣の店が広告を出すならウチも…という対抗意識の強い地域と、そうでないところが

ある）ようです。あくまでも同等に営業は行っているため、今後も地域により広告の少ないエリアには引き続き活動を継続するように、広告代理店とも話を進めています。（日立自動車交通㈱）

質問 3

現在、千駄木・駒込ルートの中内にはモニターが設置されています。目白台・小日向ルートへの設置や広告媒体としての利用など、活用方法を広げることとはできますか。

回答 3

千駄木・駒込ルートのモニターは、もともと東京都の補助金で平成24年に設置したものです。目白台・小日向ルートは補助金の申請時に運行していなかったため、現在はモニターがありませんが、事務局として設置について前向きに検討している状況です。広告媒体等としての活用についても、ゆくゆくは視野に入れて、日立自動車交通㈱とも協議していきたいと考えています。（区民課）

質問 4

中央区の江戸バスには1年間使用可能な「協賛定期」がありますが、概要と導入経緯、販売実績を教えてください。また、このような年間（または半年）パスをBーぐるに導入することは可能ですか。

回答 4

中央区では、個人協賛の名目で「1か年定期券」を発行しています。1年間コミュニティバスに対して協賛をしていただける方に対し、お礼として1か年定期券をお渡ししているものです。運賃認可が必要なので、文京区の賛同が得られれば、運輸局に申請し、導入も可能です。ちなみに、中央区の年間個人協賛件数は5件です。（日立自動車交通㈱）

編集後記

沿線協議会の公募委員を中心とする企画会議（プロジェクトチーム）の皆さんは、Bーぐるの利便性向上と沿線地域の活性化に向け、具体的な活動に取り組んでいます。この活動を進めるためには、バス運行事業者である日立自動車交通㈱との連携が不可欠とのことで、参加の要請を打診したところ、かなり前向きな返事をいただくことが出来ました。今後の沿線協議会や企画会議の展開が楽しみです。（N）

